

モデル事業名	移住者によるまちなか居住推進モデル作り事業
活動団体名	NPO 法人別府八湯トラスト ・ NPO 法人セカンドライフ倶楽部
ホームページ	http://pppbp.jp/beppulife/
所属/ 担当者名	ご担当者氏名 NPO 法人別府八湯トラスト 野上泰生
連絡先	090-4994-4847、 yasuko-n@fb3.so-net.ne.jp
活動地域	大分県 別府市

● 活動地域の概要

別府市はその豊かな温泉資源と温暖な気候などにより、シニア世代の移住者も増えており、移住者らが自ら NPO 法人を立ち上げてまちづくりに関与する例もでてきた。また、平成 12 年には、郊外に立命館アジア太平洋大学も開学し、学生達も年々増加している。



【位置図】



【移住者 NPO によるまちなか拠点調査】



【学生主導のイベント】

● 活動地域の課題

対象地域である別府市の中心市街地の人口は 6 年間で 7.3%減少している。世帯数は過去減少していたが近年やや回復しており、ほぼ横ばいである。一方で高齢者は増加しており、生産年齢層の中心市街地以外への流出と高齢化が同時に進行していることが推測される。このような人口構成の変化により、コミュニティの活力が低下してきている。

● 活動の内容 ・平成 20 年度

下記の事業を行うことで、移住者の居住に関するニーズの把握とまちなかへの誘導手段についての知見を得た。

- ① 移住に伴う住まい選択の調査事業 ・ 別府在住の既移住者を対象に、移住前後の住まいのニーズを調査
- ② 移住暮らし支援サービスの調査事業 ・ 移住者が「まちなか居住」を選択するために必要なニーズを調査
- ③ まちなか居住物件の調査事業 ・ まちなか居住を促進するための中心市街地における空き家の実態調査
- ④ まちなか居住促進サロンの事業モデル調査 ・ まちなか居住を推進するために必要な情報提供・交流拠点としてのまちなか居住促進サロンの運営モデルや最適な立地場所の調査を実施。

・平成 21 年度

平成 20 年度事業で確認できた課題を解決するための方策を開始。

- ① 情報収集＋発信 「わくわく住み友バンク」事業 ・ 居住を希望している移住者が希望する物件情報や地域などを登録して不動産事業者など向けに公開するサービスを開始する。情報の公開により、不動産事業者などの居住物件の提供を活発化し、結果としてまちなか居住を推進する。
- ② 交流促進＋生涯教育 「ベップユケムリ大学」事業 ・ 別府のまちなか全体が交流サロン・文化発信拠点となるような事業を行う。「ベップユケムリ大学」と銘打って、移住者・学生・地域住民・外部来訪者などの多彩なメンバーが講師であり、生徒になっていくような自由な学びあいコミュニティを創出する。運営は移住者らを多く交えて移住者のニーズにマッチする取組とする。
- ③ ウェブサイトによる情報提供 「ベップウオーカー」事業 ・ 提案者が運営しているウェブサイト「ベップウオーカー」に移住者用のコーナーを設置して、上記活動①および②を始めとする移住者支援の為のウェブサイトを作成し、情報の提供を行う。交流事業などの情報提供を行う為のメールマガジンの発行などを定期的実施。(ウェブサイト名称は「パピペベップ」に改称した。<http://pppbp.jp>)

● 活動の成果

・平成20年度（継続団体は記入）

1. 調査を通じて、下記の具体的な課題の抽出ができた。
移住者の居住ニーズに答えられない物件不足・・別府への移住希望者の約半数がまちなかへの居住を希望しているが、物件の提供数が少なく、移住者の期待に答え切れていない。
まちなかの文化発信・交流機能の不足・・移住者は、中心街に文化発信・交流拠点としてのサロニック的な魅力を求めているが、十分に答え切れていない。
2. 調査を通じて、地元自治体の理解が進み、中心市街地内に「移住サポートセンター」の設置が決定商店街内の空き店舗を活用して誕生した地域支援拠点内に移住サポート機能を持つ。



調査事業の様様

● 平成21年度

- ① 情報収集＋発信 「わくわく住み友バンク」事業・・12月にウェブサイトが完成して、情報収集を開始。今後は、県人会や行政のUIJターン担当部局との連携を図る。
- ② 交流促進＋生涯教育 「ベップユケムリ大学」事業・・9月～1月、第3土曜日2講座開催。5カ月10講座合計207名の参加（アンケート回収61枚）アンケートからは、来場者世代は60代>70代>50代>30代>40代>20代の順。性別は男性41%、女性59%。居住区は市街地外 市内エリアが44.3%、市外エリア27.9%、市街地エリア22.9%、県外6.5%。中心街に来る理由になり得た。継続により日常の中での動線が変化し中心街への動線が定着する可能性が見えた。
- ③ ウェブサイトによる情報提供 「ベップウオーカー」事業・・ウェブサイト名称は「パピブベップ」に改称。
<http://pppbp.jp> 専用のサイト「別府移住生活」(<http://pppbp.jp/beppulife>)も完成して運用を開始。



完成した「別府移住生活」ウェブサイト



● 今後の課題及び展望

・課題

「ベップユケムリ大学」事業は移住者にとっても好評で、参加率・満足度も高く、広がりが期待される。更に多くの移住者との関係を構築するために、自治体、マンションの管理会社や管理組合などとの連携が必要であると考えています。

・展望

「ベップユケムリ大学」事業の拡大版として、「ベップユケムリ旅倶楽部」を設立したい。移住者向けの日帰りツアーサービスを実施する。周辺地域の農漁村と移住者を結ぶことで移住の満足度を高めて、より多くの移住者を誘致するきっかけにしていきたい。この分野で実績の多いNPO 法人と連携して実施する予定。

「ベップユケムリ大学」・「ベップユケムリ旅倶楽部」は、地元のマンション販売事業者などと連携して、別府への移住者誘致の売りとして認知度をより一層高める展開を模索。これらのノウハウを活かして、マンション管理組合等に対して、専属ツアーの開催など、マンション内コミュニティの充実を促進するサービスを有償で提供する予定。